

＜ 今日の説教のポイント 創世記 37章12～36節 ＞

この事件、夢から生じていることが鍵！ その夢とは。

①ヨセフと兄たちの違いに目が行く。しかし問題は「夢」！

屈託なく、何の心配もせずに兄たちの所に行ったヨセフ(13)。そのヨセフをはるか遠くに認め、「夢見るお方がやって来た。殺してしまおう」と考えた兄たち(18)。この両者の違いに目が行きます。しかし兄たちは、自分たちが弟ヨセフにひれ伏すことになるという将来の夢の話聞かされて怒ったことを考えなければなりません。兄たちにとってヨセフを殺すとは、そのような将来にストップをかけることであったのです。問題はその判断が正しかったかです。

②弟にひれ伏す夢は、神様の救いを示す恵みの夢だった！

長男ルベンの説得もあり、兄たちの温情がヨセフを生かしました。殺していたら将来は変わって、兄たちにとって良い方向に向かっていたのでしょうか？ 否です。将来訪れる飢饉の中で、エジプトにいたヨセフに助けられることもなくなっていたわけです。弟ヨセフにひれ伏す姿、すなわち、夢が示した将来とは、神様が用意して下さっている恵みの将来の姿だったのです！

③罪は罪を呼ぶ。どこかでそれに気づき、神様に立ち返ること！

神様の御旨に逆らって進んだ兄たちを待っていたのは、慰めを拒否する父ヤコブの大きな悲しみであり、騙してそれを負い続けなければならない後ろめたさでした。私たちは、罪を一つ犯すと、またそのために罪を犯さざるを得なくなる存在なのです（「正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない」創世記 2:7）。どこかで自分の罪に気づき、神様に赦しを乞う。そうしたら、神様は赦して下さるどころか、神様の方から走り寄って抱きしめて下さるのです（18節の兄たちとは違う、放蕩息子の父親のように！ ルカ 15:20 参照）。

④神様の救いの業が始まっているのを見逃してはならない！

ヨセフがエジプトでポティファルの奴隷となったという最後の小さな記事(36)ですが、神様が救いの業を始め出して下さっているのを見逃してはなりません！ 私たちの人生も同じです！